

# 社会保障の受給資格認定と委任：要介護認定の行政学的分析

著者	荒見 玲子
学位授与年月日	2013-09-24
URL	<a href="http://doi.org/10.15083/00006251">http://doi.org/10.15083/00006251</a>

博士論文 (要約)

社会保障の受給資格認定と委任  
—要介護認定の行政学的分析—

荒見 玲子

本論文は学位授与日（2013年9月24日）より5年以内に出版予定である。

# 目次

序章 本論文の目的と課題	6
序.1 問題設定	6
序.2 要介護認定業務を研究対象とする理由	12
序.2.1 介護という政策領域	13
序.2.2 保険制度のもつ制度設計及び運用	14
序.2.3 委任と分業	15
序.3 先行研究の検討—要介護認定の政治学・行政学的分析	16
序.3.1 社会福祉学の先行研究—割当研究と普遍主義とエンタイトルメント	16
序.3.2 政策実施研究と第一線公務員論	17
序.3.3 先行研究の問題点と本研究の理論的意義の確認	19
序.3.4 本稿の構成	20
第1章 介護保険制度の概要と要介護認定	22
1.1 本章の目的	22
1.2 介護保険制度の概要	22
1.2.1 介護保険と市町村の役割・被保険者の資格	23
1.2.2 要介護認定と保険給付の仕組	23
1.2.3 サービス事業者と施設	28
1.2.4 費用負担の仕組	28
1.3 日本の要介護認定制度の比較政策上の特徴	32
1.4 日本の他の社会保障給付制度との比較	36
1.4.1 制度横断的な比較	36
1.4.2 障害区分認定との比較—給付内容の決定の分離	37
1.4.3 医療制度との比較—専門職の判断の官僚制化	39
1.5 小括—制度の特徴のまとめ	42
第2章 本研究で明らかにする命題	46
2.1 本章の目的	46
2.2 福祉国家における社会保障給付の資格認定と委任	46
2.2.1 「認定」の持つ性質—国家の代理人 (State-agents) と市民の代理人 (Citizen-agents)	46
2.2.2 委任や委託の概念の再考	47
2.2.3 「複数」主体への「委任」—分業・否定的バイアス	48
2.2.4 専門性	50
2.2.5 ルーティン業務の持つ特性と裁量行為の関係性	52
2.3 ルーティンな判断の統制に対するミクロとマクロのコントロールの違い	52
2.4 ケア政策及び保険制度の持つルーティン業務に与える影響	53
2.5 評判の形成から生じる自律性とミクロとマクロのコントロールの媒介作用	53

2.6	政策実施の政治的な効果とフィードバック	55
2.7	議論のまとめと本論文で明らかにする命題	56
2.8	実証分析の方法とリサーチデザイン	57
2.8.1	実証分析の概要	57
2.8.2	事例選択の手順及びリサーチデザイン	57
2.8.3	研究の手法	59
2.9	小括	63
第3章	第一線公務員としての認定調査員	65
3.1	本章の目的	65
3.2	分析枠組	66
3.2.1	先行研究と認定調査員を取り巻く構造	66
3.2.2	業務の流れ	70
3.2.3	先行研究及び分析の視点	74
3.2.4	フェイスシート	78
3.3	自己規定のあり方	82
3.3.1	どのような労働環境なのか	82
3.3.2	自己の業務認識	86
3.4	調査対象者に対してクライアントである申請者との関係	97
3.5	行政の担当課の統制に対して—マネジメント要因	124
3.6	業務上重視することの規定要因	135
3.6.1	モデル	135
3.6.2	仮説	137
3.6.3	使用する変数と記述統計	138
3.6.4	結果とまとめ	140
3.7	小括	142
第4章	介護認定審査会—文書による分類・合議体による分類	145
4.1	本章の目的	145
4.2	制度の説明・先行研究・分析の視点	145
4.2.1	一次判定の仕組	145
4.2.2	二次判定—認定審査会での判定	151
4.2.3	審査会委員の業務の流れ	153
4.2.4	先行研究及び分析の視点	156
4.2.5	フェイスシート	161
4.3	認定審査会委員の自己規定のあり方	164
4.4	合議体の中での他の審査会委員との関係・専門性の違い	171
4.5	調査対象者に対する判断	182
4.6	審査会事務局に対して	184

4.7 小括	187
第5章 保険者の役割—保険者を中心としたアクター関係	189
5.1 本章の目的	189
5.2 要介護認定プロセスにおける自治体担当部署の役割	189
5.2.1 要介護認定担当部署の業務の流れ	189
5.2.2 マクロの統制	196
5.3 自治体要介護認定担当部署職員の認識と行動様式—職員アンケートを使った分析	198
5.3.1 要介護認定部署に配属される職員	198
5.3.2 自治体職員の要介護認定業務認識	200
5.4 市民及び県からの統制—区分変更申請と不服審査制度	202
5.4.1 認定における市民の権利を守る方法—制度概要	202
5.4.2 不服審査請求	204
5.4.3 クレーム処理に対する耐久性—「区分変更申請」への依存	208
5.4.4 県と市民が要介護認定のルーティン業務に与える影響	209
5.5 自治体ごとの実施過程の違い	209
5.5.1 本章で扱う従属変数	209
5.5.2 分析の視点	209
5.5.3 事例の選択理由	210
5.6 事例研究	212
5.6.1 要介護認定調査	213
5.6.2 要介護認定審査会	217
5.7 小括	227
第6章 要介護認定の申請者の家族への政治的な効果の分析	228
6.1 本章の目的	228
6.2 家族介護者の伝えたいこと—単純集計	228
6.2.1 フェイスシート項目及び、本調査の回答者と要介護者の関係など	231
6.2.2 認定調査の経験について同席の家族介護者はどのように感じ、何を伝えたいのか？	236
6.3 同席の家族介護者の認定調査への評価を規定する要因	245
6.3.1 先行研究と仮説	245
6.3.2 仮説、使用する変数と記述統計	247
6.3.3 順序ロジット分析による規定要因、分析	250
6.4 認定調査への公平感の市民意識への因果効果の分析	255
6.4.1 市民意識の規定要因としての経験—仮説	255
6.4.2 傾向スコア・ウェイト法による因果効果の分析	258
6.4.3 推定の準備—変数の選択と傾向スコアの作成	264
6.5 分析結果	265
6.5.1 傾向スコアの診断	265

6.5.2 因果効果の推定結果とまとめ	266
6.6 小括	268
終章	271
終.1 結論	271
終.1.1 本論文の議論の要約	271
終.1.2 本論文の貢献と限界	275
終.2 本論文からの示唆と残された課題	276
参考文献	278
Appendix データについての補遺	291

## Appendix 目次

Appendix.A 各種アンケート調査の調査概要	291
A.1 福井県における要介護認定業務担当課・職員アンケート	291
A.2 福井県における要介護認定・認定調査員アンケート調査概要	321
A.3 福井県における介護認定審査会委員アンケート調査概要	331
A.4 福井県における要介護認定経験者の要介護認定への認識についてのアンケート調査概要	341
Appendix.B 介護保険審査会の裁決に関するデータ	370
B.1 調査期間・方法	370
B.2 データの欠損及びその理由	370
Appendix.C インタビュー調査の記録	371
C.1 保険者・行政組合・都道府県インタビュー調査の概要	371
C.2 福井県の認定調査員調査の概要	373
C.3 福井県の審査会委員調査の概要	373
C.4 その他	374
Appendix.D 資料	375
D.1 要介護認定申請書・連絡票（例）	375
D.2 認定調査票（例）	379
D.3 審査会資料（例）	388

## 要約

本論文は、「委任された」福祉国家における資格認定業務は誰がどのようなメカニズムで実質的に「受給資格」を決めるのかという問いを探求した。国が画一的に決めた基準と、市民から訴えかけられる個々の個別的な給付への要請を誰がどのようなイニシアチブとメカニズムで調和させるのか、ということ考察することを旨とした。

人材が不足する地方では、複雑な制度設計の結果、認定申請の増加に業務が耐え切れない事態が発生している保険者も存在する。市町によって事情が異なるにもかかわらず、国が非常に制度上のきつい縛りを設けているために、柔軟な対応が難しくなっている。つまり、財政的な理由、人材の観点から、介護保険制度は、「何とか維持」し続けなければならぬものとなっている。「何とか維持」するために、市町の担当職員らは工夫をしなければならない。その結果、厳格にマニュアルの運用をしようとする。マニュアルの適用が厳しくなればなるほど、認定調査員は申請者と行政の間に挟まれる。市町の職員は認定調査員の調査票を通した市民と、財政的な自治体の要請もしくは、国の要請に挟まれる。認定審査会委員は国の決めたコンピューターの結果と認定調査員の書き、市町の職員が点検をした調査票を通して見える市民との間に挟まれる。要介護認定は市町職員や市民と接する認定調査員の裁量を奪い、専門職の合議体である介護認定審査会に判断させる制度である。その一方で、専門職から市民の個別性への判断を奪う形で裁量を奪い、国の決めた基準に従う制度である。しかし、保険制度における一律な基準の適用は、市民個人が一人一人違うことから、市民にとってみれば、満たされないニーズを必ず残し、不公平感を生み出す。不公平感の矛先は、市町職員や認定調査員に向かう。しかし、その責任は国がとることはないし、できない。

このような構造の下、介護保険という社会保障の資格認定業務を考察する上では次の6つの分析課題を設定した。

- ① 要介護認定はどのような制度設計がなされているのか（第1章）
- ② 判断の前提となる調査対象者の情報収集、すなわち調査業務を委任・委託された第一線公務員である認定調査員は調査対象者の特徴をどのように文書に落とし込み、その意思決定の規定要因は何か（第3章）
- ③ 実際に「介護の手間」判断を委任された合議体組織である介護認定審査会では調査対象者についてどのように判断し、意思決定の規定要因は何か（第4章）
- ④ 認定調査員が作成した情報を認定審査会委員に伝え、各アクターの意思決定をつなぐ役割を担う行政職員は、どのような条件でどのような意思決定を行うのか（第5章）
- ⑤ ②から④から明らかになった各アクターの行動特性が保険者という単位で、組み合わせさせたとき、要介護認定に関わる各アクターはどのような条件でどのような意思決定を行うのか（第5章）
- ⑥ 要介護認定は、どのように市民を規律し、行政による資格「認定」を経験した市民にはどのような政治的効果が生じるのか（第6章）

という問いを明らかにすることにより、各アクターがどのような条件で「国家の代理人」になり、どのような条件で「市民の代理人」になるのか、その結果、「委任された」福祉国家における、資格認定業務において、実質的に、誰がどのようなメカニズムで「受給資格」を決めるのか、を検討した。



資格認定システムとしての要介護認定を考えたときに、これまでの生活保護や児童相談所行政等福祉六法行政の政策実施論や第一線公務員論として扱われてきた資格認定の議論と違うのは以下の三点である。第一点目は、認定、という資源配分を規定する国家の権限を事実上専門職や民間の事業所に委託（Contract-out）・委任している（Delegated）し、分業を行っている、ということである。しかも認定調査や審査会のエキスパートを要請するのではなく、自治体の嘱託や非常勤、民間のアクターであれば他に本務がある人に、安価で依頼している。そして委任自体は、保険者である自治体を選択できるわけではなく、強制されている。第二点目は、保険制度で大量の受給者が見込まれるのにも拘らず行政による「認定」という裁量的な制度設計を取っていることである。これは市民の権利意識の強さにより、大量あるいは反復の申請へのルーティン対応に大きな影響を与える。第一線公務員論では福祉行政におけるクライアント・市民は、しばしば「非自発的」と形容されるが、そうではない、つまり「非自発的」でない市民の「認定」という問題が生じる。第三に、ケアの必要性の認定という点である。ケアというケアを行う人とケアされる人の相互行為を当事者のニーズだけで捉えるという制度設計になっている。

以下では上記6つの分析課題の答えともなる本稿の議論の要約を行う。

第1章では、要介護認定に関わる介護保険制度の特徴を概観し、以下の三つの特徴を明らかにした。第一に、集権性が極めて高く、自治体の調整の余地が少なく、介護度によって、受けられる給付及び自己負担の額が変わるために、市民の実際の給付は民間のサービス提供者を通じた形で、介護報酬の設計に左右される。したがって、保険制度にも拘らず、要介護者の個別のニーズを満たしにくい構造になっており、特に軽度の認定者にとって硬直的な制度になっている。第二に、要介護者及び介護者の能動性・主体性で異なる指標を「要介護」の操作化された概念として使っている点と、軽度者にも給付をするという、広く浅い給付内容になっている点、認定と給付決定が分離されていることから権利を付与の側面よりも剥奪の効果が大きい。第三に、保険制度なのにもかかわらず、保険事故の発生が即給付に繋がらず裁量制度の側面を持っており、日本における社会保障制度のなかでも新しい形の資格認定制度になっている。

第2章では、分析枠組を考察した。ここでは、分析の視点として、第一に、委任をするということがどういう意味を持つのかを考察した。そして第二に、専門性の観点から個々の認定調査員や審査会委員がどのように選好を持つ可能性があるのかを論じた、それらの選好は、認定調査員であれば、クライアントと行政との関係で、審査会委員であれば、合議体のメンバーと行政の関係で決まり、専門性は必ず発揮されるのではなく、時と場合によって発揮されるものだという見方を提示した。第三に、その専門性の観点から地域の医療や保健、福祉のアクターの専門性を基礎としたヒエラルキーから生じる政治環境に自治体は大きく影響を受けることを考察した。さらに要介護認定制度の持つルーティン業務という側面と介護保険制度の持つ権利性の強さとケアのニーズの限定により、業務の負荷量が自治体の認定に影響を与える構造となっていることを示した。第四に、ミクロのルーティンのプロセスと、調査員全体、審査会委員全体といった組織間関係がもたらすマクロのプロセスは別々に存在し、自治体職員を中心としてつながるということを論じた。第五に、専門性と公平性を戦略的に使用した政治的正統性による評判という組織資源を活用したプロセスのコントロール可能性について論じた。第六に、政策実施のあり方の政治的な効果について視点を持つ必要性を論じた。

これらの議論をまとめると以下のような命題が示された。個別のアクターにおいては、認定調査員で

あれば第一線公務員の形態で、認定審査会委員であれば、専門職の合議という形態から生じる条件により、「国家の代理人」「市民の代理人」という異なる形での裁量の発揮がなされる。この二つの裁量発揮の形態は、常にあるアクター、その中の個人が決まった形態をとるのではなく、統制者である行政やクライアントである調査対象者や家族との関係で替わり得るものであり、一人にどちらかのパターンしか存在しないわけではない。こうした個々のアクターの裁量判断を統制するのが行政の担当課である。行政の担当課の統制は、担当課と個々の専門職アクターというミクロのコントロールと、職業集団といった組織間関係から生じるマクロのコントロールが存在する。行政の担当課からすればこの二つのコントロールを業務量と自らの組織資源に応じた形で組み合わせる必要があるが、その際にミクロのコントロールの場面で、専門性、公平性、中立性といった要素から規定される評判の形成により、マクロのコントロールの成否が影響を受ける。このようなプロセスが行政の自律性を規定する。さらにこのプロセスを全体で規定するのはケア政策であり、保険制度であるために、権利意識が満たされにくく、公平の価値が強くという要介護認定の社会保障給付の中で持つ特性である。こうした命題をもとに、第3章以下で個別にアクター間関係を検証している。

第3章では、「福井県の要介護認定・認定調査員へのアンケート調査」と認定調査員へのヒアリング調査をもとに、これまで研究対象とならなかった、第一線公務員としての認定調査員に焦点を当て、業務の内容や業務の性質を明らかにした。そして認定調査員には、準専門職としての認定調査員の専門的な価値判断、すなわち行政に対しても、クライアントに対してもその相手や状況に応じて、ある時は行政の代理人のようになりある時はクライアントの代理人のようになるといった両義的な役割を自分の中に内在させることがわかった。そしてどのようにこの役割を使い分けるのかという点を簡単なゲーム理論をもとに予想し、アンケート調査で実証分析を行った。その結果、認定調査員が行政の代理人になるのか、調査対象者の代理人になるのかという選好は、調査対象者と行政への行動期待（信念）の組み合わせで決まることがわかった。つまり、何らかの要因で行政と相互に行動の予測ができる状態を築くことができているならば、行政の望むスタンスでクライアントに接するということである。認定調査員にとっての行政との信頼的な関係というのは、行政の担当課の指示の一貫性や、専門性の高さにより時には認定調査員の判断をある程度信じ、その上で行政の中で通るように文書作成や理屈の付け方をアドバイスしてくれることであると考えられる。

第4章では、専門家による合議体である介護認定審査会に着目し、認定審査会委員のナラティブや「福井県の要介護認定審査会委員へのアンケート調査」を用いながら、第一に、認定審査会委員がどのような内容や業務を行い、行政や委員同士でどのような関係性を築き、認定審査の場面でどのように専門性を発揮しながら、判断を行っていくのかを示した。

さらに第二に、認定審査会委員は行政の代理人になるのか、それとも申請者やその家族の代理人となるのか、もしくは、個人的な利害に基づいて判断するのかを検討することであった。つまりどのような条件の下、審査会委員が裁量を発揮するのかを明らかにすることを試みた。審査会委員の判断は、その専門性と合議体の構成委員との関係性に依存する。原則は合議体での相場を委員同士で相互に諮りながら、相場から逸れない判断をする。発言力の大小は、専門性についての序列、知識、パーソナリティが関連する。各職種の専門性に基づいて「介護の手間」の「大小」を強く主張する場合もある。また、審査会に対する行政の関与もまた、審査会委員の判断を規定する。そして審査会の裁量を事務局が制限す

るような形で関わっていることが示唆された。ただし、制限するだけではない。審査会事務局は時には審査会委員の判断を助ける情報を提供することがあることも示された。審査会事務局の担当者のキャリアが長く専門性が高く熱意を持って仕事に臨んでいる場合、審査会委員の介護度を変更したいときで根拠が見つからない時は知恵比べのようになる。こうした場面では行政と、合議体の他の審査会委員との三つ巴の駆け引きとなり、全体として介護度を変化させる、という意向にならない場合は現状維持的・非難回避的な結論になる。そして全体として変化する、という場面が発生するかどうかは、手続きの管理という形で拒否権を事実上持つ、行政の事務局担当者の専門性及び意向が大きく左右することがわかった。

第5章では、担当課が要介護認定に関わる複数のアクターをどのようにつないでいるのか、市民や県からの影響も含めて考察した。要介護認定プロセスの一連の過程は文書に基づいたニーズの判定と行政による公平性という官僚の言語で行われており、専門職の官僚制のプロセスであるともいえる。「専門職的価値」は官僚による「資格認定」という行為と本質的に相反する。それではどういうときに行政がサポートされるのか。自治体職員の役割は重要である。専門性と戦略的公平性による評判の確立がその成否の鍵である。なぜかというと、個々の調査票のプロセスの管理の観点からは組織内のシステムと同じように見て取れるが、特定の管理の方法を変えるには組織を超えた委任の問題が入るため、実質的な委任の度合いは地域の医療・介護をめぐる政治（+その地域の専門職間のヒエラルキー）に極めて左右されるからである。

第6章では、第一に、「福井県の要介護認定経験者の要介護認定への認識についてのアンケート調査」をいうオリジナルデータを使い、要介護認定を受ける人の家族というのが認定調査をどのように受け止めているのかというのを明らかにした。第二に、家族介護負担を考慮するという要介護認定の制度枠組が実態に合っていないが故に、「家族の介護ニーズ」については自治体の要介護認定行政の実施のあり方によって選択的に救済がなされていることが想定でき、その結果認定調査に同席する家族は、認定調査の短い時間の一発勝負であるがゆえに日頃の状況が伝わらないと心配しており、何とか伝えたいという思いが認定調査員へのあらゆる印象に関係することが明らかになった。第二に、認定調査を受けた家族の認定調査の公平感の評価が何によって規定されるのか、という問いをロジット分析によって明らかにした。認定調査の場面で、調査の目的や内容の丁寧な説明、基本調査項目のチェックの確認、認定調査員の主観的影響力の大きさ、といった認定調査員の姿勢が公平感に大きく影響を与えることが分かった。これは自分の日頃の介護の苦勞が伝わったかどうか自信がもてるような調査のあり方が公平感を高めることになると考えられる。第三に、傾向スコアによるウェイト付けによる因果効果の検証という手法を使い、ストリートレベルの行政職員との接触の場面での印象というのが広い政治意識にどのように左右するのか、という問いをセレクションバイアスの問題をクリアし、検証した。その結果この認定調査のプロセスで平等に取り扱われていない、と感じた人というのは、認定調査の経験だけではなく、政府や地域への信頼といった広い政治意識にまでマイナスの影響を与えるということがわかった。

結論としては、自治体担当課の職員が持つ専門性から生じる戦略的な公平性による最も政治的効率性の高い調整が複数の専門職をつないだ場合に、ミクロのルーティンのプロセスと、調査員全体、審査会委員全体といった組織間関係がもたらすマクロのプロセスの結節の成否を決定づける。その結果要介護プロセス全体のコントロールが可能となり、介護保険制度が持つ構造的な制約も弱めることができると

考えられる。そしてそのような認定は市民に対してよいアウトカムをもたらす。

自治体の担当課がこれらのプロセスをコントロールできない場合、次のようなプロセスが循環することになるだろう。すなわち、市民の利己的な行動→区分変更で市民の意向をそのまま認めるような認定の乱発→ワークロードの増加→調査員が言うことを聞かない→調査票の精度が上がらない→（ワークロードの増加による）「聞き取り」などの情報収集の不十分化→審査会からの批判→判定基準の不安定化→申請数の増加→審査件数の増加→委員の辞退・辞職→妥当性を欠く判定結果→市民の不満増大…の繰り返しである。

地域間の認定の公平性の問題も同様である。国の再分配の構造と地域の再分配の構造から、性質の異なる「平等」についての異なるポリティックスが生じる。受給水準が低い自治体は高い自治体と比較することで、「公平性」を要求するが、一方で、外形的な意味での市民の側からは「等しい」取り扱いを要求される。介護保険のサービスの給付水準が、被保険者本人の心身の障害の程度だけを基準にせず、家族介護者の存在を前提としているのにもかかわらず、要介護認定基準が家族の介護力や環境を考慮していない。この矛盾の解決を自治体現場で行っているのが実情である。この対応力の差が自治体ごとの差であり、実際の需要と官製のニーズの差が大きくなることが受給者である市民にとっては決定的な不平等を生み出す。

(了)

## 参考文献

### 【外国語文献】

- Anderson, C.J., and Singer, M.M. [2008] “The Sensitive Left and the Impervious Right: Multilevel Models and the Politics of Inequality, Ideology, and Legitimacy in Europe.” *Comparative Political Studies*, 41: (4/5)564-599.
- Angrist, Joshua D., and Pischke, Jörn-Steffen. [2009] *Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion*, Princeton University Press.
- Arksey, H. [2002] “Rationed Care: Assessing the Support Needs of Informal Carers in English Social Service Authorities.” *Journal of Social Policy*, 31(1):81-101.
- Balch, G.I. [1974] “Multiple Indicators in Survey Research: The Concept Sense of Political Efficacy.” *Political Methodology*, 1(2):1-43.
- Bates, Robert. H., et.al. [1998] *Analytic Narratives*, Princeton University Press.
- Becker, Sascha, O., and Andrea Ichino. [2002] “Estimation of Average Treatment Effects Based on Propensity Scores.” *Stata Journal*, 2(4):358-377.
- Brehm, John and Scott Gates. [1997] *Working, Shirking, and Sabotage: Bureaucratic Response to a Democratic Public*, Michigan University Press.
- Brehm, John and Scott Gates. [2008] *Teaching, Tasks, and Trust: Functions of the Public Executives*, Russel Sage Foundation.
- Brodkin, Evelyn Z. [2011] “Policy Work : Street-Level Organizations under New Managerialism.” *Journal of Public Administration Research and Theory*, (21):253-277.
- Caliendo, Marco, and Sabine Kopeinig. [2008] “Some Practical Guidance For The Implementation of Propensity Score Matching”, *Journal of Economic Surveys*, 22(1):31-72.
- Careja, Romana and Patrick Emmenegger. [2012] “Making Democratic Citizens: The Effects of Migration Experience on Political Attitudes in Central and Eastern Europe”, *Comparative Political Studies*, 45(7):875-902.
- Campbell, A.L. [2003] *How Policies Make Citizens: Senior Political Activism and the Welfare State*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Carpenter, Daniel. [2001] *The Forging of Bureaucratic Autonomy: Reputations, Networks, and Policy Innovation in Executive Agencies, 1862-1928*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Carpenter, Daniel. [2010] *Reputation and Power: Organizational Image and Pharmaceutical Regulation at the FDA*, Princeton University Press.
- Easton, David. [1965] *A Framework for Political Analysis*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- Egan, P. J., and Mullin Megan. [2012] “Turning Personal Experience into Political Attitudes: The Effect of Local Weather on Americans’ Perception about Global Warming.” *The Journal of Politics*, 74(3):796-809.
- Esping-Andersen, Gøsta [1990=2001] *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Polity Press. (岡沢憲英・宮本太郎監訳『福祉資本主義の三つの世界——比較福祉国家の理論と動態』、ミネルヴァ書

房。)

- Evans, Tony. [2010] *Professional Discretion in Welfare Service*, ashgate Pub Co.
- Finer, Herman. [1941] "Administrative Responsibility in Democratic Government." *Public Administration Review*, (1):335-350.
- Gelman, Andrew and Jennifer Hill. [2007] *Data Analysis Using Regression and Multilevel/Hierarchical Models*, Cambridge University Press.
- Gerring, John. [2007] *Case Study Research: Principles and Practices*, Cambridge University Press.
- Hardin, R. [2000] "The Public Trust." In Pharr, S.J. & Putnum, R.D., (eds.) *Disaffected Democracies: What's Troubling the Trilateral Countries?* Princeton NJ: Princeton University Press, pp.31-51.
- Hasenfeld, Yeheskel. [1985] "Citizens' Encounters with Welfare State Bureaucracies." *Social Service Review*, 59(4):622-635.
- Hasenfeld, Yeheskel. [2000] "Organizational Forms as Moral Practices: The Case of Welfare Departments." *Social Service Review*, 74(3) : 329-351.
- Hayashi, Masayoshi, and Haruka Kazama. [2008] "Horizontal Equity or Gatekeeping? Fiscal Effects on Eligibility Assessments for Long-term Care Insurance Programs in Japan." *Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics*, (15):257-276.
- Heclo, Hugh. [1978] "Issue Networks and the Executive Establishment." In Anthony King (Eds.). *The New Political System*, Washington D.C. *The American Enterprise Institute for Public Policy*, pp.87-124.
- Hieda, Takeshi. [2012] *Political Institutions and Elderly Care Policy: Comparative Politics of Long-Term Care in Advanced Democracies*, Palgrave Macmillan.
- Hill, Michael, and Hupe, Peter. [2009] *Implementing Public Policy: An Introduction to the Study of Operational Governance Second Edition*, Sage Publication.
- Hood, C. [2011] *The Blame Game: Spin, Bureaucracy, and Self-Preservation in Government*, Princeton University Press.
- Huber, Gregory. A. [2007] *The Craft of Bureaucratic Neutrality: Interests and Influence in Governmental Regulation of Occupational Safety*, Cambridge University Press.
- Hupe, Peter and Hill, Michael. [2007] "Street-Level Bureaucracy and Public Accountability." *Public Administration*, 85(2):279-299.
- Ingram, Helen, and Schneider, Anne. L. [2006] "Policy Analysis for Democracy", *The Oxford Handbook of Public Policy*, Oxford University Press.
- Jasanoff, Sheila. [1994] *The Fifth Branch: Science Advisers as Policymakers*, Harvard University Press.
- Jewell, C.J. [2007] *Agents of Welfare State: How Caseworkers Respond to Need in the United States, Germany and Sweden*, Palgrave Macmillan.
- Kaufman, Herbert. [1960(2006)] *The Forest Ranger: A study in Administrative Behavior. Special*

*Reprint Edition*, Routledge.

- Keiser, Lael R. [1999] “State Bureaucratic Discretion and the administration of Social Welfare Programs: The Case of Social Security Disability.” *Journal of Public Administration Research and Theory*, 9(1):87-106.
- Keiser, Lael R. [2010] “Understanding Street-level bureaucrats’ decision making: Determining eligibility in the Social Security Disability Program.” *Public Administration Review*, 70:247-57.
- Keiser Lael R, and Joe Soss. [1998] “With Good Cause: Bureaucratic Discretion and the Politics of Child Support Enforcement.” *American Journal of Political Science*, 42:1133-56.
- Kittilson, M.K., and Schwindt-Bayer, L. [2010] “Engaging Citizens: The Role of Power-Sharing Institutions.” *Journal of Politics*, 72(4) : 990-1002.
- Kreps, David. [1990] “Corporate Culture and Economic Theory.” *In Perspectives on Positive Political Economy*, edited by J.E.Alt and K.A.Shepsle. New York:Cambridge University Press.
- Krause, George A. [2010] “Legislative Delegation of Authority to Bureaucratic Agencies.” In *The Oxford Handbook of American Bureaucracy*, edited by Robert F. Durant, New York: Oxford University Press.
- Kumlin, Staffan. [2002] “Institutions—Experiences—Preference: How Welfare State Design Affects Political Trust and Ideology” In *Restructuring the Welfare State: Political Institutions and Policy Change*, edited by Bo Rothstein, and Sven Steinmo, Palgrave Macmillan.
- Kumlin, Staffan, and Bo Rothstein. [2005] “Making Breaking Social Capital: The Impact of Welfare-State Institutions.” *Comparative Political Studies*, (38):339-365.
- Lassen, D. D., and Soren Serritzlew. [2011] “Jurisdiction Size and Local Democracy: Evidence on Internal Political Efficacy from Large-scale Municipal Reform.” *American Political Science Review*, 105(2):238-258.
- Lasswell, H.D. [1936(1951)=1959] *Politics: Who Gets What, When, How*, The Free Press. (久保田きぬこ訳、H・D・ラスウェル『政治—動態分析』、岩波現代叢書。)
- Lijphart, Arend. [1999=2005] *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, Yale University press. (粕谷裕子訳、『民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』、勁草書房。)
- Lewis, David E. [2003] *Presidents and the Politics of Agency Design, Political Insulation in the United States Government Bureaucracy 1946-1997*, Stanford University Press.
- Lipsky, Michael. [1980] *Street-Level Bureaucracy: Dilemmas of the individual in public services*. New York, NY: Russell Sage Foundation.
- Lipsky, Michael. [1984] “Bureaucratic Disentitlement in Social Welfare Programs” *Social Service Review*, 58(1):3-27.
- Marshall, T. H. [1963] “Citizenship and Social Class.” *Sociology at Crossroads and Other Essays*, edited by T.H.Marshall, Heinemann, London.

- May, Peter. J. and Soren.C.Winter. [2009] “Politicians, Managers, and Street-Level Bureaucrats: Influences on Policy Implementation.” *Journal of Public Administration Research and Theory*, 19(3):453-476.
- Maynard-Moody Steven, and Michael Musheno. [2000] “State Agent or Citizen Agent: Two Narratives of Discretion.” *Journal of Public Administration Research and Theory*, 10:329-58.
- Maynard-Moody, Steven and Michael Musheno. [2003] *Cops, Teachers, Counselors Stories from the Front Lines of Public Service*, The University of Michigan Press.
- Maynard-Moody, Steven and Portillo Shannon. [2010] “Street-level Bureaucracy Theory.” In *The Oxford Handbook of American Bureaucracy*, edited by Robert, F. Durant, Oxford University Press. Chapter 11,252-277.
- Meir, Kenneth J. and George A. Krause [2003] “The Scientific Study of Bureaucracy: An Overview.” *Politics, Policy, and Organizations Frontiers in the Scientific Study of Bureaucracy*, edited by Kenneth J.Meier, and George A. Krause, The University of Michigan Press.
- Mettler, Suzanne, and Joe Soss [2004] “The Consequences of Public Policy for Democratic Citizenship: Bridging Policy Studies and Mass Politics.” *Perspectives on Politics*, 2(1):55-73.
- Mettler, Suzanne. [1998] *Dividing Citizens: Gender and Federalism in New Deal Public Policy*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Mettler, Suzanne. [2005] *Soldier to Citizens: The G.I.Bill and the Making of the Greatest Generation*. New York: Oxford University Press.
- Mettler, Suzanne. [2011] *The Submerged State: How Invisible Government Policies Undermine American Democracy*. Chicago and London: The University of Chicago Press.
- Morgan, J.K., and A.L.Campbell. [2011] *The Delegated Welfare State: Medicare, Markets and the Governance of Social Policy*, Oxford University Press.
- Niemi, Richard G., Stephen C. Craig, and Franco Mattei. [1991] “Measuring Internal Political Efficacy in the 1988 National Election Study.” *American Political Science Review*, 85(4):1407 - 13.
- North, Douglass.C. [1990=1994] *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*, Cambridge; New York: Cambridge University Press. (竹下公視訳、『制度・制度変化・経済成果』、晃洋書房。)
- Oberfield, Zachary W. [2008] *Becoming the Man: How Street-Level Bureaucrats Develop their Workplace Identities and Views*, Ph.D dissertation.
- Oberfield, Zachary W. [2010] “Rule-Following and Discretion at Government’s Frontlines: Continuity and Change during Organization Socialization.” *Journal of Public Administration Research and Theory*, 20(4):735-755.
- Oberfield, Zachary W. [2012] “Socialization and Self-Selection: How Police Officers Develop Their Views about Using Force.” *Administration and Society*, 44(6):702-730.
- Pierson, Paul. [2006] “Public Policies as Institutions.” *Rethinking Political Institutions: The Art of*



- the State*, edited by Ian Shapiro, Stephen Skowronek and Daniel Galvin, New York University Press.
- Piven, Frances Fox, and Richard Cloward. [1993(1971)] *Regulating the Poor: The Functions of Public Welfare*. New York: Vintage.
- Portillo, Shannon. [2008] *The Face of the State : The Role of Social Status and Official Position in the Mobilization of Authority*, Ph.D dissertation.
- Portillo, Shannon. [2010] "How Race, Sex and Age Frame the Use of Authority by Local Government Officials." *Law & Social Inquiry*, 35 (3): 603-23.
- Prottas, J.M. [1979] *People-Processing: The Street-level Bureaucrat in Public Service Bureaucracies*. Lexington, MA: Lexington Books.
- Rhodes, R.A.W. and Marsh, David. [1992] "Policy Networks in British Politics: A Critique of Existing Approaches." In *Policy Networks in British Government*, edited by D. Marsh and R. A. W. Rhodes, Oxford: Oxford University Press, pp.1-26.
- Riccucci, Norma M. [2005a] *How Management Matters: Street-Level Bureaucrats and Welfare Reform*. Washington DC: Georgetown University Press.
- Riccucci Norma M. [2005b] "Street-Level Bureaucrats and Intrastate Variation in the Implementation of Temporary Assistance for Needy Family's Policies." *Journal of Public Administration Research and Theory*, (15):89-111.
- Rudolph, Thomas J, and Evans Jillian. [2005] "Political Trust, Ideology and Public Support for Government Spending." *American Journal of Political Science*, 49:660-71.
- Rosenbaum, P. and D.Rubin. [1983] "The Central Role of the Propensity Score in Observational Studies for Causal Effects." *Biometrika*, 70(1):41-50.
- Rothstein, Bo. [1998] *Just Institutions Matter: The Moral and Political Logic of the Universal Welfare State*, Cambridge University Press.
- Rothstein, Bo, and Steinmo, Sven eds. [2002] *Restructuring the Welfare State: Political Institutions and Policy Change*, Palgrave Macmillan.
- Sandfort Jodi, R. [2000] "Moving beyond Discretion and Outcomes: Examining Public Management from the Front Lines of the Welfare System." *Journal of Public Administration Research and Theory*, (10): 729-56.
- Schneider, Anne. L., and Helen Ingram. [1993] "Social Construction of Target Populations." *American Political Science Review*, 87(2):334-46.
- Schneider, Anne. L., and Helen Ingram. [1997] *Policy Design for Democracy*, University Press of Kansas.
- Schwartz, Frank J. [1998] *Advice and Consent: The Politics of Consultation in Japan*, Cambridge University Press.
- Skocpol, Theda. [1992] *Protecting Soldiers and Mothers: The Political Origins of Social Policy in the United States*, Belknap Press of Harvard University Press (Cambridge).

- Skocpol, Theda. [2003] *Diminished Democracy: From Membership to Management in American Civic Life*. Norman: University of Oklahoma Press.
- Skolnick and Fyfe [1993] *Above the Law: Police and the use of Excessive Force*. New York: Free Press.
- Smith, Steven Rathgeb, and Helen Ingram. [1993] "Public Policy and Democracy." *Public Policy for Democracy*, edited by Helen Ingram and Steven Rathgeb Smith, Washington, DC: Brookings Institution.
- Soss, Joe. [1999] "Lessons of Welfare: Policy Design, Political Learning, and Political Action." *American Political Science Review*, 93(2): 363 - 80.
- Soss, Joe. [2002] *Unwanted Claims*, The University of Michigan Press.
- Soss, J., R.C.Fording and S.F. Schram. [2011] *Disciplining the Poor: Neoliberal Paternalism and the Persistent Power of Race*, Chicago University Press.
- Spicker, Paul. [1995=2001] *Social Policy: Themes and Approaches*, Prentice Hall. (武川正吾、上村泰裕、森川美絵訳、『社会政策講義 福祉のテーマとアプローチ』、有斐閣。)
- Stensota, Helena.O. [2011] "Interaction between Bureaucratic Ideology and Local Community Political Orientation", *Journal of Public Administration Research and Theory*, (22):553-571.
- Stadelmann-Steffen, Isabelle [2011] "Social Volunteering in Welfare States: Where Crowding Out Should Occur." *Political Studies*, (59):135-155.
- Stein, Harold [1952] *Public Administration and Policy Development: A Case Book*. New York: Harcourt, Brace.
- Titmuss, Richard M. [1968=1971] *Commitment to welfare*, London: Allen and Unwin. (三浦文夫監訳、『社会福祉と社会保障: 新しい福祉をめざして』、東京大学出版会。)
- Treisman, Daniel [2007] *the architecture of Government: Rethinking Political Decentralization*, Cambridge University Press.
- Verba, Sidney, K.L. Scholzman and H.E.Brady. [1995] *Voice and Equality*, Harvard University Press.
- Vis, Barbara. [2010] *Politics of Risk-taking: Welfare State Reform in Advanced Democracies*, Amsterdam University Press.
- Whitford Andrew B. [2002] "Bureaucratic Discretion, Agency Structure, and Democratic Responsiveness. The Case of the United States Attorneys." *Journal of Public Administration Research and Theory*, (12):3-27.
- Wilson, James Q. [1989] *Bureaucracy: What Government Agencies Do and Why They Do It*. New York, NY: Basic Books.
- Wilensky, Harold L. [1975=1984] *The Welfare State and Equality: Structural and Ideological Roots of Public Expenditures*, University of California Press. (下平好博訳、『福祉国家と平等 公共支出の構造的・イデオロギー的起源』、木鐸社。)
- Yang, Kaifeng. [2005] "Public administrators' Trust in Citizens: A Missing Link in Citizen

【邦語文献】

- 秋元美世 [2007] 「権利・裁量・参加」 武川正吾・三重野卓編『公共政策の社会学 社会現実との格闘』東信堂、第4章。
- 秋山智久 [2007] 『社会福祉専門職の研究』ミネルヴァ書房。
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 [2010] 『公共政策学の基礎』有斐閣。
- 天野拓 [2006] 『現在アメリカの医療政策と専門家集団』慶応義塾大学出版会。
- 有末賢 [2012] 『生活史宣言 ライフヒストリーの社会学』慶応義塾大学出版会。
- アルフレッド・シュッツ [1932=2006] 佐藤嘉一訳『社会的世界の意味構成:理解社会学入門(改訳版)』、木鐸社。
- 安藤理 [2009] 『走れ！ 児童相談所』文芸社。
- 飯間敏弘 [2012] 「医療政策—医療費抑制策の推進とその変容—」、森田朗・金井利之編著『政策変容と制度設計—政界・省庁再編前後の行政—』ミネルヴァ書房。
- 石田一紀・住居広士 [1999] 『納得できない要介護認定』萌文社。
- 石田一紀 [2003] 「要介護認定制度はなぜ、導入されたのか」『月刊保団連』No.782、2003.4。
- 池上直己・J.C.キャンベル [1996] 『日本の医療 統制とバランス感覚』中公新書。
- 池田謙一 [2010] 「行政に対する制度信頼の構造」『年報政治学』2010-I、11-30。
- 伊藤周平 [1996] 『福祉国家と市民権 法社会的アプローチ』法政大学出版局。
- 伊藤周平 [2000a] 『介護保険と社会福祉：福祉・医療はどう変わるのか』ミネルヴァ書房。
- 伊藤周平 [2000b] 『検証介護保険』青木書店。
- 伊藤周平 [2007] 『権利・市場・社会保障：生存権の危機から再構築へ』青木書店。
- 伊藤周平 [2008] 『介護保険法と権利保障』法律文化社。
- 伊藤周平 [2009] 『障害者自立支援法と権利保障 高齢者・障害者総合福祉法に向けて』明石書店。
- 伊藤大一 [1980] 『現代日本官僚制の分析』東京大学出版会。
- 伊藤正次 [2003] 『日本型行政委員会制度の形成』東京大学出版会。
- 今村都南雄 [1997] 「政策実施研究の再検討と課題」『行政学の基礎理論』、第13章。
- 上野千鶴子 [2011] 『ケアの社会学 当事者主権の福祉社会へ』太田出版。
- 宇賀克也 [2004] 『地方自治法概説』有斐閣。
- 打越綾子 [2004] 『自治体における企画と調整—事業部局と政策分野別基本計画』日本評論社。
- 衛藤幹子 [1998] 「連立政権における日本型福祉の展開—介護保険制度創設の政治過程」『レヴァイアサン』(増刊号)：68-94。
- 越田明子 [2002] 「介護認定審査会の現状と課題—文京区介護認定審査会の現状分析を通して—」『東洋大学発達臨床研究紀要』(2)：60-74。
- 大熊由紀子 [2010a] 『物語 介護保険(上) いのちの尊厳のための70のドラマ』岩波書店。
- 大熊由紀子 [2010b] 『物語 介護保険(下) いのちの尊厳のための70のドラマ』岩波書店。

- 大竹文雄 [2010]『競争と公平感』中公新書。
- 大橋洋一 [2010]「政策実施論の特色」大橋洋一編著『BaSIC 公共政策学 6 政策実施』ミネルヴァ書房、第1章。
- 大淵憲一 [2005]「公共事業政策に対する公共評価の心理学的構造：政府に対する一般的信頼と社会的公平感」『実験社会心理学研究』45(1):65-76。
- 岡田哲郎 [2007]「社会サービスの割当—介護保険制度を事例とした割当過程の考察」武川正吾・三重野卓編『公共政策の社会学 社会現実との格闘』、東信堂、第3章。
- 岡部耕典 [2006]「福祉サービスのための給付制度を「受給者本位」とすることについての考察—支援費制度と介護保険制度の検討を中心として」『障害学研究』(2) : 48-69。
- 岡山裕 [2012]「専門性研究の再構成」内山融他編『専門性の政治学—デモクラシーとの相克と和解』ミネルヴァ書房、第2章。
- 小川正人、藤森宏明、青木栄一 [1999]「教育委員会制度と分権改革に関する調査研究—都道府県・市町村教育長の意識調査報告—」『東京大学教育学研究科教育行政学研究室研究紀要』(18) : 2-72。
- 沖藤典子 [2010]『介護保険は老いを守るか』、岩波新書。
- 織田輝哉・阿部晃士 [2000]「不公平感はどのように生じるのか 生成メカニズムの解明」海野道郎編『日本の階層システム 2 公平感と政治意識』、第5章。
- 小幡太志、難波悦子、横山奈緒枝 [2002]「介護認定調査員の活動実態と問題点」『吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要』(3) : 19-31。
- 甲斐朋香 [2012]「介護認定審査会の共同設置の事例（宇佐市、豊後高田市）」『協議会・機関等の共同設置、事務の委託に新しい光を当てて』日本都市センター、第4章。
- 介護保険原点の会、鏡論編 [2010]『総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～』、公人の友社。
- 加藤淳子 [2005]「比較政治学方法論と日本政治研究」『日本政治を比較する 日本比較政治学会年報第7号』、早稲田大学出版部。
- 加藤仁美、岩井悠希 [2011]「建築審査会における審査請求案件の審理・採決の実態—全国的傾向と東京都及び世田谷区の事例から」『日本建築学会計画系論文集』76(662) : 799-808。
- 金井利之 [2006a]「地域間平等の行政学（特集 平等と政治）」『年報政治学』2006(1) : 148-170。
- 金井利之 [2006b]「社会福祉サービスにおける政府間役割分担（特集 社会福祉の公的責任と三位一体改革）」『社会福祉研究』(96) : 47-53。
- 金井利之 [2010]『実践自治体行政学 自治基本条例・総合計画・行政改革・行政評価』第一法規。
- 金子正史 [2005a~2005e]「指定確認検査機関に関する法的問題の諸相(一)～(五・完)」『自治研究』81(6):65-80、(7):3-17、(8):3-19、(9):25-45、(11):36-65。
- 川嶋周一 [2012]「EUにおける専門性とテクノクラシー問題—コミトロジーとデモクラシーの関係をめぐって」内山他編著『専門性の政治学 デモクラシーの相克と和解』、ミネルヴァ書房、第5章。
- 菊池潤・田近栄治・油井雄二 [2005]「介護保険の現状と持続可能性」田近栄治・佐藤主光編『医療と介護の世代間格差 現状と改革』、第7章。
- 北山俊哉 [2011]『福祉国家と地方政府』有斐閣。
- 木原活信 [2009]「社会福祉領域におけるナラティブ論」野口裕二編『ナラティブ・アプローチ』勁草書

房、第6章。

- 桑原英明 [2004] 「政策実施と政策波及」 笠原英彦、桑原英明編『日本行政の歴史と理論』 芦書房、第12章。
- 河野勝 [2008] 「政策・政治システムと「専門知」」 久米郁男編『専門知と政治』 早稲田大学出版部。
- 小林哲也 [2010] 「都道府県別要介護認定率の格差とその要因に関する考察—世帯構造からの分析を中心に—」 『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』 第12号、pp.31-39。
- 小林良二 [1982] 「福祉の社会組織」 三浦文夫・三友雅夫編『社会福祉の政策』 有斐閣。
- 小林良二 [2000] 「要介護認定とケアマネジメント」 『季刊社会保障研究』 36(2) : 167-17。
- 駒村康平 [1999] 「介護保険、社会福祉基礎構造改革と準市場原理」 『季刊社会保障研究』 35(3):276-284。
- 坂田周一 [2003] 『社会福祉における資源配分の研究』 立教大学出版会。
- 坂本和靖 [2008] 「親の行動・家庭環境がその後の子供の成長に与える影響—The Sensitivity analysis of Hidden Bias—」 『IPSS Discussion Paper Series.No.2007-J01』。
- 佐藤郁哉 [2002] 『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社。
- 佐藤満 [1999] 「地方分権と福祉政策」 水口他編著『変化をどう説明するか:地方自治篇』 木鐸社、pp.69-87。
- 篠原清夫 [2010] 『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』 弘文堂。
- 島崎謙治 [2011] 『日本の医療 制度と政策』 東京大学出版会。
- 嶋田暁文 [2010] 「政策実施とプログラム—行政学・政治学からの考察(1)」 大橋洋一編著『BASIC 公共政策 第6巻 政策実施』、第9章。
- 清水谷諭・稲倉典子 [2006] 「公的介護保険制度の運用と保険者財政：市町村レベルデータによる検証」 『会計検査研究』 No.34,pp.83-95。
- 新藤宗幸 [2004] 『概説 日本の公共政策』 東京大学出版会。
- 鈴木淳子 [2011] 『質問紙デザインの技法』 ナカニシヤ出版。
- 須田政好 [2010] 「合併市町村における教育委員会選出に係る旧町村区域要因の研究—宮城県を事例にして」 『琉球大学生涯学習研究センター紀要』 (4) : 25-36。
- 住居広士 [2004] 『要介護認定とは何か』 一橋出版。
- 住居広士 [2006] 「要介護認定と介護保険料の経済と財政」 坂本忠次・住居広士編著『介護保険の経済と財政 新時代の介護保険のあり方』 勁草書房。
- 千田透 [2010] 「高齢者介護と地域福祉の将来展望、そして生協の意義とは」 『生活協同組合研究』 (414):15-21。
- 曾我謙悟 [1998a] 「地方政府の政治学・行政学：「アーバン・ガバナンス」の視点からの整理と検討(1)」 『自治研究』 74(6) : 89-110。
- 曾我謙悟 [1998b] 「地方政府の政治学・行政学：「アーバン・ガバナンス」の視点からの整理と検討(2)」 『自治研究』 74(7) : 86-103。
- 曾我謙悟 [2005] 『ゲームとしての官僚制』 東京大学出版会。
- 曾我謙悟 [2006] 「政権党・官僚制・審議会—ゲーム理論と計量分析を用いて」 『レヴァイアサン』 (39) : 145-169
- 武智秀之 [1996] 『行政過程の制度分析』 中央大学出版部。

- 田尾雅夫 [1990] 『行政サービスの組織と管理—地方自治体における理論と実際』 木鐸社。
- 田尾雅夫 [1994] 「第一線職員の行動様式」『講座行政学 第5巻 業務の執行』有斐閣、第6章。
- 高寄昇三 [1998] 「地方自治体と福祉行政の新展開」日本地方自治研究学会編『地方自治の先端理論』勁草書房、第4章。
- 田近栄治・菊池潤 [2006] 「介護保険の何が問題か—制度創設過程と要介護状態改善効果の検討—」『フィナンシャルレビュー』2006年3月、pp.157-186。
- 田辺国昭 [1987] 「生活保護政策の構造—公的扶助行政における組織次元の分析(1)」『國家學會雜誌』100(11・12) : 1009-960。
- 田辺国昭 [1988a] 「生活保護政策の構造—公的扶助行政における組織次元の分析(2)」『國家學會雜誌』101(3・4) : 363-307。
- 田辺国昭 [1988b] 「生活保護政策の構造—公的扶助行政における組織次元の分析(3)」『國家學會雜誌』101(9・10) : 709-649。
- 田辺国昭 [1990] 「書評：畠山弘文著『官僚制支配の日常構造—善意による支配とは何か』」『年報行政研究』(25) : 304 - 308。
- 田邊国昭 [1991] 「行政学の諸問題—西尾勝著『行政学の基礎概念』によせて(1)」『自治研究』67(12) : 77-100。
- 田邊国昭 [1992a] 「行政学の諸問題—西尾勝著『行政学の基礎概念』によせて(2)」『自治研究』68(4) : 50-63。
- 田邊国昭 [1992b] 「行政学の諸問題—西尾勝著『行政学の基礎概念』によせて(3)」『自治研究』68(5) : 34-46。
- 田邊国昭 [1992c] 「行政学の諸問題—西尾勝著『行政学の基礎概念』によせて(4)」『自治研究』68(8) : 39-57。
- 田辺国昭 [1995] 「戦後日本の社会保障—保守—党優位制の下での福祉国家形成—」『レヴァイアサン』(16) : 89 - 120。
- 中央法規 [2012] 『社会保障の手引き—施策の概要と基礎資料 平成24年度版』中央法規。
- 辻中豊 [1999] 「審議会等の透明化・公開の政治学的意義」『都市問題研究』51(11) : 57-69。
- 辻由希 [2012] 『家族主義福祉レジームの再編とジェンダー政治』ミネルヴァ書房。
- 筒井孝子 [1998] 『[入門]介護サービスマネジメント』日本経済新聞社。
- 筒井孝子 [2006] 「我が国の要介護認定の特徴と今後の課題」『老年社会科学』27(4) : 445—452。
- 堤修三 [2010] 『介護保険の意味論 制度の本質から介護保険のこれからを考える』中央法規。
- 手塚洋輔 [2010] 『戦後行政構造とディレンマ』藤原書店。
- 東京大学社会科学研究所全所的プロジェクト「ガバナンスを問い直す」「要介護認定業務に関する調査」企画実施委員会編『福井県における「要介護認定調査研究」基本報告書』(2013年3月)。
- 中野妙子 [2009] 「介護保険法および障害者自立支援法と契約」『季刊社会保障研究』45(1):14-24。
- 長野基 [2009] 「自治体政策過程における都市計画審議会の機能の分析—東京都区市を事例にして—」『年報行政研究』(44) : 150 - 169。
- 中村秀恒 [2006] 「受療状況が要介護認定率の地域差に及ぼす影響」『厚生 の指標』53(5):1-7。

- 西尾勝 [1990]『行政学の基礎概念』東京大学出版会。
- 西原和久 [2010]『間主観性の社会学理論—国家を超える社会の可能性[1]』、新泉社。
- 日本医師会総合政策研究機構（日医総研）[1997]『介護保険導入の政策形成過程』。
- 日米 LTCI 研究会 [2010]『在宅介護における高齢者と家族 都市と地方の比較調査分析』ミネルヴァ書房。
- 原田大樹 [2003]「福祉契約の行政法学的分析」『法政研究』69(4):765-806。
- 原田大樹 [2010]「政策実施の手法」大橋洋一編著『BaSIC 公共政策学 6 政策実施』ミネルヴァ書房、第 3 章。
- 原田久 [2011]『広範囲応答型の官僚制—パブリックコメント手続の研究—』信山社。
- 畠山弘文 [1989]『官僚制支配の日常構造 善意による支配とは何か』三一書房。
- 畠山博之 [2008]「要介護度変更による課題：要介護 1 から要支援 2 に変更された被保険者の状況」『保健福祉学研究』(6)：169-183。
- 林光[2012]「JGSS 統計分析セミナー2011—傾向スコア・ウェイト法を用いる因果分析—」『日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集[12]JGSS Research Series No.9』pp.107-127。
- 稗田健志 [2005]「政策ネットワークと社会福祉改革—介護保険法と改正児童福祉法の比較立法過程研究—」『大原社会問題研究所雑誌』、法政大学大原社会問題研究所、第 555 号、pp.36-51。
- 広瀬美千代 [2010]『家族介護者のアンビバレントな世界—エビデンスとナラティブからのアプローチ』、ミネルヴァ書房。
- 藤垣裕子 [2003]『専門知と公共性 科学技術社会論の構築へ向けて』、東京大学出版会。
- 藤田由紀子 [2008]『公務員制度と専門性—技術系行政官の日英比較—』、専修大学出版局。
- 不破麻紀子・筒井淳也 [2010]「家事分担に対する不公平感の国際比較分析」『家族社会学研究』22(1)：52-63。
- 本田順子 [2005]「要介護認定の認定調査に関わる市調査員が直面する現状と課題」『日本看護学会論文集 地域看護』36：213-215。
- 星野崇宏・岡田謙介 [2006]「傾向スコアを用いた共変量調整による因果効果の推定と臨床医学・疫学・薬学・公衆衛生分野での応用について」『保健医療科学』55(3)：230-242。
- 星野崇宏 [2009]『調査観察データの統計科学-因果推論・選択バイアス・データ融合-』岩波書店。
- マイケル・イグナチエフ [2000=2008] 金田耕一訳『ライツ・レヴォリューション 権利社会をどう生きるか』金田耕一訳、風行社。
- 松尾聖司 [2005]『東京大学行政学研究会 研究叢書 2 裁量の拘束と政策形成—公証行政における執行態様の分析』東京大学 21 世紀 COE プログラム「先進国における<<政策システム>>の創出」。
- 真淵勝 [2009]『行政学』有斐閣
- 真淵勝 [2010]『社会科学と理論のモデル 8 官僚』東京大学出版会。
- 真山達志 [1991]「政策実施の理論」宇都宮深志・新川達郎編『行政と執行の理論』東海大学出版会、第 9 章。
- 真山達志 [1997]「実施過程の政策変容」『講座行政学 第 5 巻 第 2 版』第 2 章。
- 宮野勝 [2000]「公平理念はどのように形成されるのか 概念の整理と日本の位置づけ」海野道郎編『日

本の階層システム 2 公平感と政治意識』、第 4 章。

六車由実 [2011]『驚きの介護民俗学』医学書院。

村上祐介 [2011]『教育行政の政治学』木鐸社。

村松岐夫 [1974]「行政学における責任論の課題・再論」『法学論叢』95 巻 4 号。

村松岐夫 [1994]『日本の行政—活動型官僚制の変貌』中公新書。

村松岐夫 [2001]『行政学教科書[第 2 版]』有斐閣。

森田朗 [1998]『許認可行政と官僚制』岩波書店。

森田朗 [2006]『会議の政治学』慈学選書。

林春植・宣賢奎・住居広士 [2010]『ミネルヴァ社会福祉叢書 韓国介護保険制度の創設と展開—介護保障の国際的視点—』ミネルヴァ書房。

笠京子 [1995]「省庁の外郭団体・業界団体・諮問機関」西尾勝・村松岐夫編『講座行政学 第 4 巻 政策と管理』有斐閣、第 3 章。

山本隆 [2005]「京都府下市町村における介護保険実態調査—市町村の役割を再考する—」『立命館産業社会論集』41(2) : 109 - 123。

山田嘉子 [2010]「サービス利用における意思決定ダイナミクス」日米 LTCI 研究会 [2010]『在宅介護における高齢者と家族 都市と地方の比較調査分析』ミネルヴァ書房、第 9 章。

結城康博・嘉山隆司 [2008]『よくわかる福祉事務所のしごと』ぎょうせい。

結城康博 [2010]「要介護認定システムにおける国と市町村の役割—介護保険制度における地方分権のあり方を考える」『年報自治体学』(23) : 28-45。

横川博英、安村誠司、丹野高三、大澤正樹、小野田敏行、板井一好、川村 和子、坂田 清美 [2009]「閉じこもりと要介護発生との関連についての検討」『日本老年医学会雑誌』46(5) : 447-457。

吉本光一 [2006]『健康長寿社会を支える保健・医療・福祉』福井県立大学県民双書。

和田勝 [2007]『日本・ドイツ・ルクセンブルク国際共同研究 介護保険制度の政策過程』東洋経済新報社。

渡辺美鈴、渡辺丈眞、松浦尊磨、河村 圭子、河野 公一 [2005]「自立生活の在宅高齢者の閉じこもりによる要介護の発生状況について」『日本老年医学会雑誌』42(1) : 99-105。

### 【業界誌】

「要介護認定調査の直接実施が奏功」『月刊介護保険』2006 年 10 月、No.128、pp.3-10。

### 【行政資料】

大阪府要介護認定ワーキングチーム [2005]『平成 16 年度大阪府要介護認定事務アンケート報告書』。

大阪府要介護認定ワーキングチーム [2008]『要介護認定事務マニュアル』。

大阪府要介護認定ワーキングチーム [2012]『介護認定審査会事務職員向けマニュアル』。

厚生労働省老健局老人保健課 [2005]「平成 16 年度要介護認定実態調査報告書」(平成 17 年 3 月)。

厚生労働省老健局老人保健課 [2006]「平成 18 年度要介護認定実態調査報告書」(平成 19 年 3 月)。

厚生労働省老健局老人保健課 [2010]「平成 21 年度要介護認定実態調査報告書」(平成 22 年 3 月 31 日)。



厚生労働省老健局老人保健課 [2011]「平成 22 年要介護認定適正化事業報告書」(平成 23 年 3 月)。  
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 [2012]『平成 23 年度 老人保健事業推進費等補助金  
老人保健健康増進事業 要介護認定における事務負担の軽減に関する調査研究事業報告書』。  
NPO シルバー総合研究所 [2011]『平成 22 年度厚生労働省老人保健事業等推進費補助金 要介護認定に  
おける主治医意見書の記載方法等に関する調査研究事業 報告書』。  
その他、ヒアリング先自治体より提供された資料。

【インターネットサイト】(いずれも最終アクセス 2013 年 3 月 31 日)

教育委員会制度調査研究会 [2004]「教育委員会制度及び県費負担教職員制度の運用実態に関する調査  
(平成 16 年 9 月)」。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo1/003/gijiroku/04092701/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo1/003/gijiroku/04092701/001.htm)

WAM net : <http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>

介護保険情報 BANK : <http://www.kaigobank.jp/index.html>

介護保険制度ウォッチング(土肥徳秀氏のページ)

: <http://www.mars.dti.ne.jp/~doi/index.html>

尾形医院ホームページ

: <http://www.o-ga-ta.or.jp/2000/o-ga-ta100.htm>